

平成29年度

京都府学力診断テストの結果の概要について



平成29年7月19日
学 校 教 育 課

- ◎ 実施日 平成29年4月12日（水）～17日（月）
- ◎ 実施対象 府内全小学校及び義務教育学校前期課程（209校）
特別支援学校小学部（1校）の第4学年
府内全中学校及び義務教育学校後期課程（95校）
特別支援学校中学部（1校）の第1学年
- ◎ 実施教科及び受検者数 小学校及び義務教育学校第4学年 国語 10,183人 算数 10,175人
中学校第1学年及び義務教育学校第7学年 国語 9,543人 数学（算数） 9,542人
- ◎ 問題内容及び問題数
 - 学力調査
 - ・基礎・基本に関する問題 ……20問
 - ・活用に関する問題 ……5問
 - 質問紙調査 小学校第4学年 ……48問（学校独自2問 計50問）
中学校第1学年 ……49問（学校独自2問 計51問）

平成29年度京都府学力診断テストを実施しました。学力調査と質問紙調査の結果について概要を報告します。

学力調査の状況

◆ 学力については、小学校4年、中学校1年ともに概ね定着しているが、一部の領域に課題が見られる。

<小学校4年>

【国語】基礎・基本の問題は定着している。活用の問題についても、一定の定着が見られる。

領域別では「読むこと」に課題が見られる。

【算数】基礎・基本の問題は定着している。活用の問題については、課題も見られる。各領域とも一定の定着は見られるが、「数量関係」については、一部課題も見られる。

<中学校1年>

【国語】基礎・基本の問題は、概ね定着している。活用の問題については、依然課題が見られる。領域別では、「読むこと」に課題が見られる。

【数学（算数）】基礎・基本の問題は、概ね定着している。活用の問題については、依然課題が見られる。「数と計算」は、定着しているが、「量と測定」と「図形」に課題が見られる。また、「数量関係」の一部に課題が見られる。

質問紙調査の状況

◆ 【授業改善】自分の考えを発表する機会や話し合い活動を取り入れることが増えている。また、学習のめあての提示や振り返る活動を行うことも増えており、主体的・対話的で深い学びの視点から授業改善が進んでいる。

※「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と肯定的に回答している児童生徒の割合

「授業では、自分の考えを発表する機会が与えられていた」

小学校4年：84.4%（H28:83.9%）、中学校1年：93.5%（H28:93.1%）

「授業では、みんなで話し合う活動をよく行った」

小学校4年：86.9%（H28:86.3%）、中学校1年：95.2%（H28:93.9%）

「授業の中で目標（めあて・ねらい）が示されていた」

小学校4年で88.0%（H28:86.3%）、中学校1年で95.2%（H28:93.0%）

「授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行っていた」

小学校4年で78.8%（H28:78.3%）、中学校1年で79.6%（H28:77.2%）

◆ 【学習習慣】家で学校の宿題をしている児童生徒の割合は9割を越えている。また、学校の授業時間以外の勉強時間については、小学校4年では改善傾向が見られる。

「家で学校の宿題をしていますか」

※「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と肯定的に回答している児童生徒の割合
小学校4年：97.1%（H28:97.2%）、中学校1年：94.9%（H28:94.9%）

「学校の授業時間以外に1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか」

※「30分より少なかった」「全くしなかった」と回答している児童生徒の割合
小学校4年：18.7%（H28:19.8%）、中学校1年：14.7%（H28:14.5%）

勉強時間が30分未満の児童は小学校4年で1.1ポイント減少し、中学校1年で0.2ポイント増加した。

◆【生活習慣】自分だけの携帯電話やスマートフォンを持っている児童生徒の割合が増え、使用時間も増えている。

「自分だけの携帯電話やスマートフォンを持っていますか」

※「持っている」と回答している児童生徒の割合

小学校4年：39.9%（H28:39.7%）、中学校1年：60.3%（H28:55.9%）

自分だけの携帯電話やスマートフォンを持っている児童生徒は、小学校4年で、0.2ポイント増加し、中学校1年で、4.4ポイント増加した。

「ふだん、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをしますか」

※「全くしない」と回答した児童生徒の割合

小学校4年：54.6%（H28:55.9%）、中学校1年：24.9%（H28:28.5%）

携帯電話等の使用時間は、小学校、中学校共に増加した。

改善プラン
～指導を強化する事項～

★ **基礎・基本の定着**

学力を下支えする取組の充実や小中連携の視点での結果の活用を効果的に行い、組織的な授業改善や一人一人を大切にしたい指導の充実を図る。

★ **学習習慣の定着**

予習・復習を中心とした主体的な学習習慣が身に付くように、取組を充実、推進させる。

★ **主体的・対話的で深い学びの充実**

見通しを立てて、主体的・対話的に課題の発見・解決に取り組み、振り返る学習過程を大切に、学びを深める。

★ **携帯電話やスマートフォンの正しい使い方**

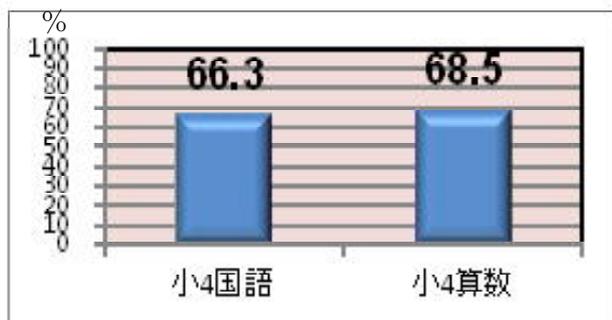
携帯電話やスマートフォンに潜む危険性や正しい使い方等について、児童生徒への理解を深めるとともに保護者への啓発を図る。

★ **「京都府学力診断テスト活用講座」を実施【7月6日・7日・11日】**

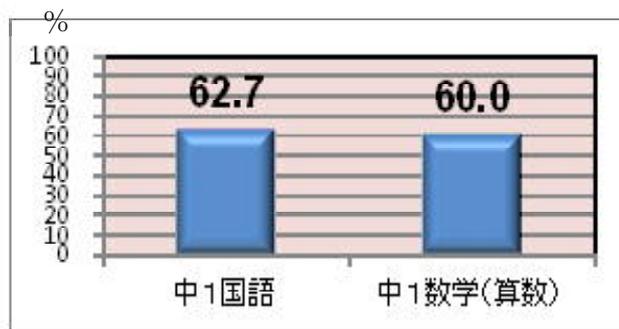
・診断テストの概要について ・成果と課題、授業改善の視点について

1. 学力調査の状況

(1) 京都府総合



※数値はすべて正答率(100%)

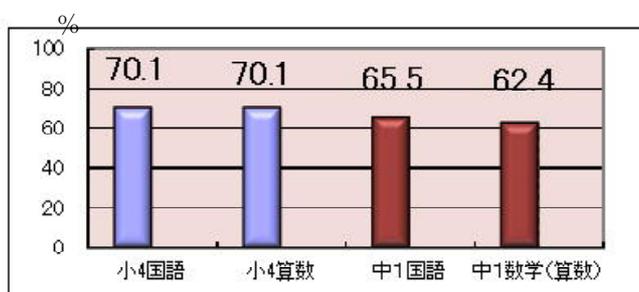


※学力については、小学校4年、中学校1年ともに概ね定着しているが、一部の領域に課題がみられる。

(2) 教育局別

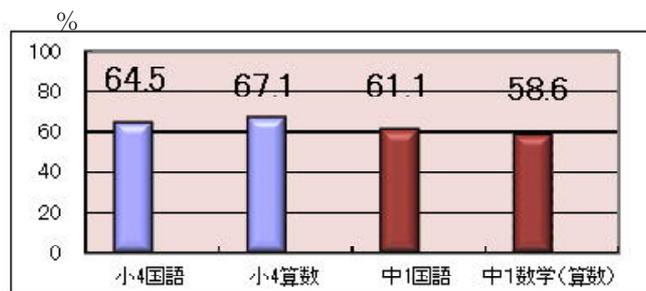
乙訓

(小18校・中8校)



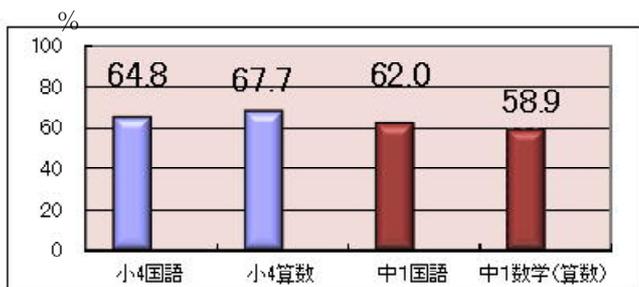
山城

(小77校・中35校)

小4年国語(1419人 13.9%) 算数(1419人 13.9%)
中1年国語(1277人 13.4%) 数学(算数)(1277人 13.4%)小4年国語(5225人 51.3%) 算数(5219人 51.3%)
中1年国語(4684人 49.1%) 数学(算数)(4683人 49.1%)

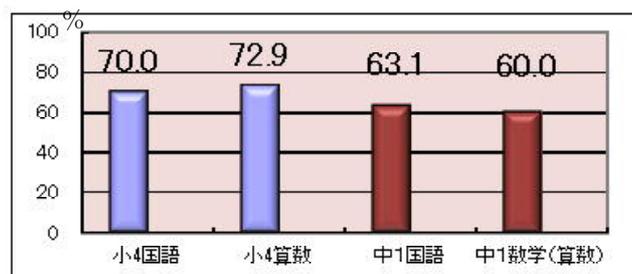
南丹

(小29校・中14校・義務1校)



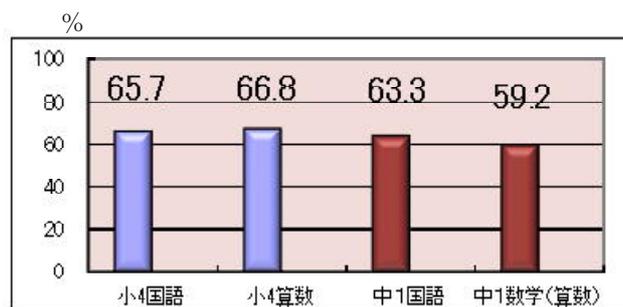
中丹

(小49校・中22校)

小4年国語(1125人 11.0%) 算数(1124人 11.0%)
中1年国語(1030人 10.8%) 数学(算数)(1030人 10.8%)小4年国語(1663人 16.3%) 算数(1662人 16.3%)
中1年国語(1605人 16.8%) 数学(算数)(1605人 16.8%)

丹後

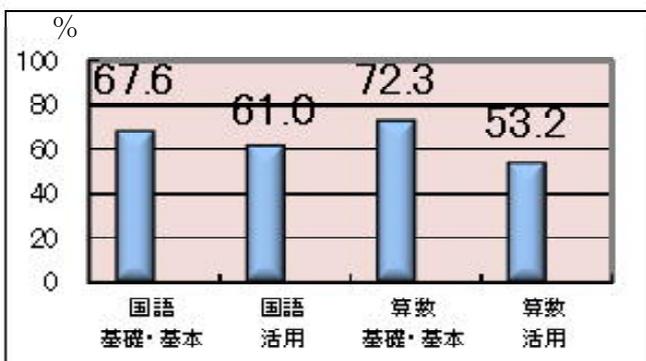
(小35校・中12校)

小4年国語(749人 7.4%) 算数(749人 7.4%)
中1年国語(785人 8.2%) 数学(算数)(785人 8.2%)

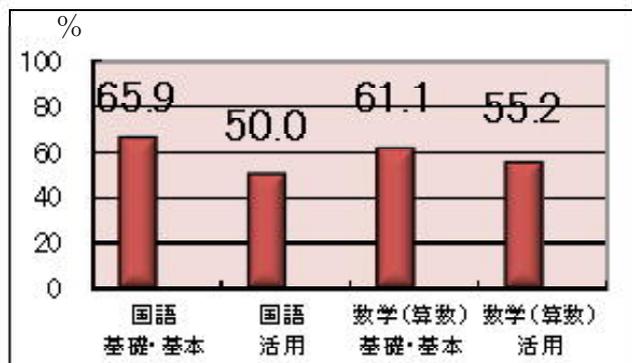
()は、(受検者数 / 府全体の受検者数に占める割合)を表す。

(3) 問題別（基礎・基本に関する問題 活用にに関する問題）

小学校4年



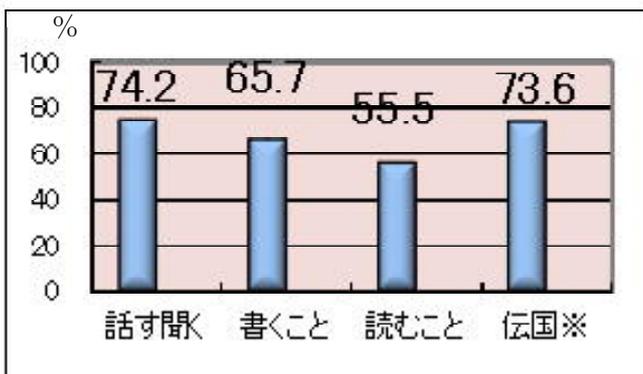
中学校1年



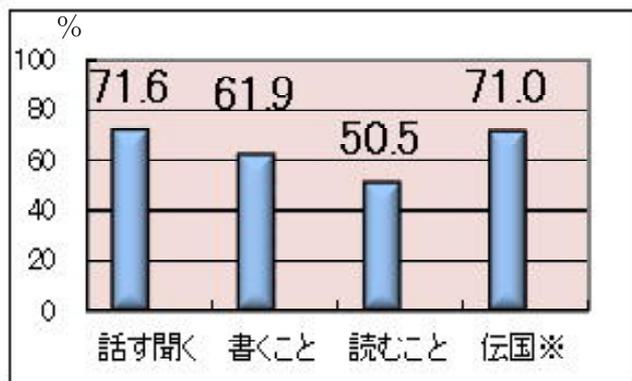
(4) 教科別の状況

国語

小学校4年



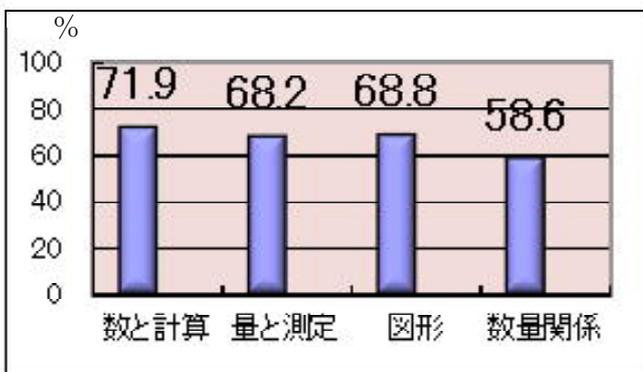
中学校1年



※伝国・・・伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

算数・数学(算数)

小学校4年



中学校1年

